



## デイリージーザスニュース #055

### イエスのガリラヤにおける偉大な宣教

イエスの最初のガリラヤ巡礼

最初のツアーは祈りから生まれた

MK 1.35-39 (並行テキスト: MT 4.23-35、LK 4.42-44)

=====

35 朝早く、まだ真っ暗なうちに、イエスは起きて家を出て、寂しい所へ行き、夜明けまでそこで祈りを続けておられた。Mシモンとその仲間たちはイエスを探して、地方中を捜し回った。37 ついにイエスを見つけると、彼らは叫んだ。「みんながあなたを探しています。」L人々はイエスが自分たちのもとを去るのを阻止しようとしたが、イエスはこう言われた。

38 M 「他の場所へ行こう-近くの村へLと他の町々—私はM説教しなければならない そこにも神の国の福音が伝えられるのです。私はそのために遣わされたのです。M、なぜ来たのか。」

39 そこで、イエスはガリラヤ全土を巡り歩き、絶えず宣べ伝え、会堂で教え、悪霊を追い出し、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気やわずらわしさを癒し続けた。

イエスのうわさはシリア全土に広まり、人々はさまざまな病気にかかっている人、ひどい痛みを苦しんでいる人、悪霊に取りつかれた人、発作を起こしている人、麻痺している人々をみなイエスのもとに連れて来た。そしてイエスは彼らを癒された。ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こうの地方から大勢の群衆がイエスに従った。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ジョン = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

## コンテキストダイジェスト

位置	カペナウムの外の人里離れた場所
時間	イエスが31歳の8月（8月）
の生涯の段階	第4段階：ガリラヤでの偉大な宣教
第11章	ガリラヤの最初の旅
セクション #055	ガリラヤの最初の旅は祈りから始まった

今日の朗読は、イエスの最初のガリラヤ巡礼を要約したものです。共観福音書には、この巡礼の出来事を記述した具体的な文章が 5 つしかありませんが、どれも非常に重要な意味を持っています。イエスがこの地域を巡礼するのに約 6 か月かかりました。

この期間を予測できるのは、イエスが安息日に地元の会堂で話をしていたことがわかっているからです。ガリラヤには約 25 の町と村があったので、イエスがその地域のすべての会堂を訪問するには約 25 回の安息日が必要でした。（後で説明するように、イエスは巡回中にカペナウムにも定期的に訪問しています。）イエスは会堂で話をしていた週の間、宣教活動のために各町や村の近くに留まり、毎日、増え続ける群衆に話しかけていたと考えられます。

イエスは日曜日の早朝に個人的な祈りを捧げた後、最初の旅を開始しました。この祈りの時間は、前日の午前 8 時の安息日の礼拝で始まった 24 時間サイクルを完了するものでした。

イエスは夜遅くまで説教を続けました。そして、夜明けの数時間前、弟子たちよりずっと早く、早朝に起きて、祈るための人目につかない場所を探しに出かけました。これはイエスにとって特別な出来事ではありませんでした。ルカは、イエスが個人的な祈りを定期的に実践していたことを明らかにしています（LK 5. 16）。1 日に数時間、一人で祈るのがイエスのライフスタイルでした。睡眠を犠牲にして祈ったことから、イエスが祈りの奉仕を優先していたことがわかります。祈りの時間が、イエスが最初の旅に出たいという気持ちをかき立てた様子から、イエスの祈りの影響がわかります。

イエスが祈りの中で父と聖霊と交わり、自分についての良い知らせのメッセージを世界中のすべての人に伝えるというイエスのビジョンが再確認されました。ガリラヤのすべての村、町、都市を歩いて回るよりも、カペナウムで爆発的な活動を始める方がはるかに簡単だったでしょう。徒歩での旅は危険で、困難で、あらゆる面でロジスティックス的に要求が厳しく、言うまでもなく疲れます。

イエスは、ガリラヤのすべての人々に福音を伝え、また、それを必要とするすべての人々に癒しと解放を与えることに熱心に取り組んでいました。イエスは、困っている人々が自分のところに来るのを待つことができませんでした。弟子を作るために世界に「出かけて行く」ことがイエスの使命だったのです。

カペナウムの興奮した人々がイエスにそこに留まるよう説得しようとしたとき、イエスはそれを拒絶しました。イエスは天国を離れ、すべての人々に福音を宣べ伝えるためにこの地上に来ました... **「そのために私は来たのです。」** 祈りの時間は、イエスが宣教をただ 1 つの場所に限定する

という誘惑に打ち勝つための準備となりました。イエスは「**すべての国の人々を弟子にするために**」来ました。イエスの決意は、全世界の救世主になるという包括的なビジョンから決して逸脱しませんでした。

その後の6か月間、イエスはガリラヤのすべての村、町、都市を組織的に訪問しました。イエスは、教え、説教し、あらゆる肉体的および精神的な病を癒すという3つの使命に毎日一日中取り組みました。ガリラヤでの宣教活動の最初の数か月間にイエスの人気が急上昇したのも不思議ではありません。

歴史上最も偉大な伝達者による大衆への力強い公の説教と、イエスが患うあらゆる病気、悪霊にとりつかれた人、病弱な人に対する奇跡的な奉仕が相まって、この巡回旅行の数か月間に大勢の人々がイエスに従うようになりました。人々は、北と西はシリア、南東はデカポリス(「10の都市」)、ヨルダン川東岸のペレア、南はエルサレムとユダヤの残りの地域など、はるか遠くからやって来しました。パレスチナ全土の人々が、アリの群れのようにイエスを探し求めてガリラヤに集まりました。

共観福音書の筆者たちがガリラヤの最初の巡回で記録したたった4つの出来事は、毎日何が起っていたかを理解するのに非常に重要です。巡回までの24時間は、典型的な安息日を象徴するものでした。平日はさらに忙しかったです。巡回中、イエスは毎日何千人もの人々に個人的な伝道活動で福音を伝え、群衆への説教では何万人もの人々に福音を伝えました。世界はこのような宣教活動を見たことがありませんでした。イエスのような人は他にいません。

応用：

「**すべての国の人々を弟子にする**」というビジョンと熱意を託しました。この旅では、専属の弟子たちが次々とイエスに従い、イエスの言動をすべて観察しました。夜になると、弟子たちはイエスと話し合い、食事を共にし、一緒に祈りました。イエスは、自分がしたように、早朝に個人的な祈りを捧げるよう、弟子たち全員を励ましました。

イエスのように、私たちも毎日個人的な祈りに励むべきです。イエスが実践し、私たちに教えた祈りは、イエスが私たちの人生に与えてくださったすべての人々に福音を伝えるというビジョンと決意を必然的に強めてくれます。イエスは私たちの模範であり、祈りの生活と伝道/宣教への関わりをつなぐ先生でもあります。今後のDJNでイエスの模範と教えに従うことで、イエスが祈りと宣教をどのように結び付けたかがわかります。

最近、あなたの個人的な祈りの生活はどうですか？

イエスの例は、祈りについて、また、すべての人々と福音を伝えたいというあなたの情熱について、あなたに何を教えてくれますか。

イエスの模範にもっと完全に従うためには、具体的にどのような変化が必要ですか。いつから始めますか。